

インフルエンザ警報発令中

かぜは軽い症状が中心ですが、インフルエンザは高熱や全身の痛みを伴う重い症状が特徴です。発熱の症状がある場合は、早い目に病院に行って診断を受けましょう。発症から48時間以内であれば抗ウイルス薬があります。

まずは、規則正しい生活（十分な睡眠・適度な運動・栄養のある食事）をこころがけましょう！！

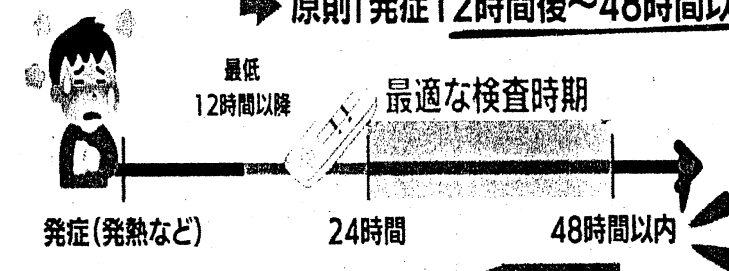
	かぜ	インフルエンザ
発症の早さ	徐々に発症する	急激に発症する
主な症状	せき、鼻水、鼻づまり、 喉の痛みなど軽い症状が多い	強い全身症状 （関節痛、筋肉痛など）が出やすい
発熱時の体温	あっても37℃台が多い	38℃を超える
悪寒、倦怠感	軽め、またはほとんどない	強く、全身で生じる
主な病原体	ライノウイルスなど	インフルエンザウイルス
感染力	それほど強くない	強い、短期間で多くの人に感染する
合併症	ほとんどみられない	肺炎や脳症などの合併症もみられる



インフルエンザは「学校において予防すべき感染症」として「発症した後5日を経過し、かつ、解熱したのち2日を経過するまで」出席停止扱いになることが学校保健安全法施行規則で定められています。（※発症した日を0日目と数えます）もちろん早めの受診と医師による診断は必須ですが、「ちょっと気になる」「何だかおかしい」といった初期症状の段階で自分の状態をきちんと把握することも大切です。自分のため（早期回復）そしてまわりの人のため（感染拡大防止）を知っておいてほしいと思います。

インフルエンザはいつ検査すべき？

➡ 原則「発症12時間後～48時間以内」



ウイルス量
（＝検査で陽性
になりやすい）

発症してから時間がたつほど
ウイルス量があがるので
検査で陽性になりやすい

抗ウイルス薬
の治療効果
（＝薬が効き
やすい）

抗ウイルス薬は
発症早期の方が
効きやすい

原則発症してから
48時間までが限界

参照：インフルエンザウイルス抗原迅速診断検査利用法—最適な検査時期についての1 考案

発熱がある場合は、かかりつけの
病院に相談して受診するようにして
ください。早い目の対応が大切です。

